

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 旅人とたいようの会

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム ゴールドライフ大東		種別：介護老人福祉施設	
代表者氏名：理事長 西尾 浩志		定員（利用人数）： 60 名	
所在地：岐阜県大垣市東前1丁目79番地			
TEL：0584-82-2800		ホームページ：https://www.294.or.jp	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日：平成8年7月5日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 大東福祉会			
職員数	常勤職員： 34名	非常勤職員	16名
専門職員	（専門職の名称）医師 3名	管理栄養士	2名
	看護職員 5名	歯科衛生士	1名
	生活相談員 1名	介護職員	28名
	介護支援専門員 1名	事務員他	8名
	機能訓練指導員 1名		
施設・設備 の概要	（居室数）個室 34	（設備等）面談室	1
	二人部屋 9	事務室	1
	四人部屋 2	医務室	1
	静養室 1	更衣室	3
	浴室 3	トイレ	13
	洗濯室 1	休養室	1
	配膳室 3	デイルーム	3
	食堂 4	ワーカーセンター	3
	汚物処理室 3	リネン室	3
	介護材料室 3	仏間	1
	休憩室 4	会議室	1
	介護者教育室 1	厨房	1
	機能回復訓練室 1		

③理念・基本方針（※転載）

【基本理念】

人間性を尊重し、施設に関わるすべての人たちの心を豊かにできる施設づくりを目指します。

【行動指針】

1. 施設と職員は、互いに人間性を尊重した姿勢を崩しません。
2. より良いサービスや施設づくりのために、創意工夫と改善を続けます。
3. 意見交換や行事をとおして、地域社会との交流を図ります。
4. 職員同士は共に歩む仲間であることを自覚し、「和」を大切にします。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・開設27年を経て社会情勢の変化や地域の要望に応じて、多種多様なニーズに対応できるよう、複数のサービスが提供できる体制を整え、利用者との関わりにも配慮しつつ地域社会とのつながりを大切にしている。
 - ① 福祉介護相談窓口福祉110番の設置
 - ② ファミリーサポート事業の運営場所の提供
 - ③ 介護予防教室の開設
 - ④ 地域の活動場所にカルチャーホールを貸し出し
 - ⑤ 広範囲の居住者に資格学校への通学や研修機会を開放
- ・働きやすい職場を目指し職員総意で同じ方向に向けての改革を実施し、ペーパーレス化と全利用者に介護ロボットの見守り支援システムを導入し、職員の業務負担軽減に繋げている。
- ・職場環境の改善に心掛け、仕事と家庭の両立支援、女性の活躍推進、有給休暇の取得奨励で取得率70%、時間外労働時間の削減等で働きやすい職場として、県及び労働局から認定されている。
 - ① ワークライフバランス推進エクセレント企業
 - ② 新はつらつ職場づくり宣言事業所
 - ③ 介護人材育成事業者グレードⅡ
 - ④ くるみん認定企業
- ・施設内に資格学校を開校し、受講費用を法人が負担し働きながら資格取得ができる体制と業務内に動画を閲覧し常に学ぶ姿勢を支援する環境を整えている。外国人実習生には日本語講師による学習機会を提供し語学力のサポートをしている。
- ・SDGs推進ネットワークに会員登録し、使用済み切手を回収し社会福祉協議会に寄付、ペットボトルキャップをワクチンに換えて途上国の子どもに届ける活動に取り組み、社会貢献と地域貢献への思いで、環境保護にも取り組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年11月21日（契約日）～ 令和5年12月14日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	0 回（— 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 業務の効率化とコスト削減に向けて、ICT化により文書や記録物をペーパーレス

とし、施設の運営状況、利用者情報等の検索・閲覧がスムーズとなり、セキュリティ面でも安全な運用ができています。グループウェアのアプリを活用し、全職員がいつでも情報の共有ができ、コミュニケーションの手段のみならず、働き方改革の推進にも活用できています。介護ロボットの見守り支援システムを全ての利用者に導入し、利用者の動き、心拍や呼吸数等を画面で把握し、安心できる個別ケアにつなげている。

2、地域で育まれた関係性を基に、災害時の福祉避難所の指定、地域の企業へ介護相談事業に訪問、使用済み切手の収集、エコキャップ運動、ファミリーサポート事業や活動団体への場所提供等で、地域のみんなが笑顔で暮らせるまちづくりを目指し、SDGsの活動を取り入れている。

3、職員の質の向上に向けて、働きながら学べる資格学校を開校、短時間でも繰り返し学習ができる動画教材での研修、画像付きのケアマニュアルを整備し、職員の主体的な教育研修の機会が確保されている。各種委員会活動も主体的な運営とし、施設の行事や現況をホームページで日々更新し、地域のみならず多方面に情報発信し、施設理解に努めている。

◇改善を求められる点

- ・学ぶ意欲のある職員に対しては、学習機会の環境を整え好条件がそろっているが、どの職員も前向きな姿勢になる方策の配慮もされたい。
- ・社会貢献や地域貢献への取り組みとしてSDGsの活動を推進しており、目標を深められ、更なる施設のイメージアップや社会的課題へのステップアップにつなげられたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度福祉サービス第三者評価を受審し、幅広い視点で評価して頂き施設経営を見直す良い機会になりました。その中で良い点や改善すべき点をご指摘頂き、良い点に関しては継続していくと共に、今後の状況に合わせた対応をしていきたいと思っております。改善すべき点に関しては、全職員で共有し改善に取り組んでいき、より良いサービスを提供できるよう努めていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。